令和８年度学校経営計画表

１　学校の現況

学校番号	特１８	学校名	県立伊奈特別支援学校	学校長名	大木　勉
副校長名	豊崎　修敬	教頭名	瀬尾　理絵子、安藤　美紀	事務（室）長名	坂寄　泰丈

教職員数	教諭	138	養護教諭	2	常勤講師	28	非常勤講師	5	実習助手	2	寄宿舎指導員	―	事務職員	3	技術職員等	19	計	197

幼児・児童・生徒数	部	１年（３歳児）		２年（４歳児）		３年（５歳児）		４年		５年		６年		小計		合計	合計学級数
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
	幼稚部	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
	小学部	15	13	28	4	28	11	13	6	21	5	27	9	132	48	180	42
	中学部	28	10	17	9	29	13	―	―	―	―	―	―	74	32	106	23
	高等部	29	13	18	7	24	11	―	―	―	―	―	―	71	31	102	17
	専攻科	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
														277	111	388	82

２　目指す学校像

- ◆　こころとからだにやさしい学校
- ◆　一人一人の可能性を大切にする学校
- ◆　信頼とつながりを大切にする学校

３　現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項　　目	現　　状　　分　　析	課　　題
学校経営	・令和７年度は、全校児童生徒数（392 名）に占める 30 日以上の欠席者は 9.0%（37 名）で、令和６年度の 12.9%に比べ、わずかに減少した。不登校の児童生徒への支援については、個々の背景や理由を把握しながら、児童生徒に合った支援策を講じているが、保護者との連携がカギとなっている。外部の関係機関との情報・課題を共有し多角的視点からのアプローチを試みる必要が出てきている。	・保護者に長期欠席に関しての困り感がない。 ・長期欠席者に対する、これまでの対応、外部機関との連携を継続して進める。 ・オンラインによる学級活動への参加等、本人に合った参加方法を実施する。

	・コンプライアンス遵守の共通理解と意識向上のため、コンプライアンス推進委員会を中心に、管理職によるトップダウン型の研修よりも、各部が主体となって行うボトムアップ型研修が有効であった。ヒヤリハット事案を生かしきれない面がある。自分事と捉えられるよう意識改善が必要である。 ・令和７年度も、勤務時間超過者はいなかったが、最後まで残っている者が限定されている。管理職、教務主任、部主事、学年主任が連携し、定期的な言葉かけや段取りの付け方等を示し、働き方改革を進めていく。 ・ストレスチェックでは、身体愁訴等、疲労の蓄積によるストレスが大半から見られた。業務の精選や ON,OFF の切り替えに繋がる体制改善が必要である。	・研修とともにヒヤリハット事例も共有し、コンプライアンス遵守の意識を、教職員一人一人が自分事として持ち続ける工夫。 ・ヒヤリハット事案等を示しながら、リスクマネジメントに繋がる研修会の実施。 ・教員間の業務分担の均一化を図り、行事の精選や仕事内容の整理等を行う。段取り力の強化と行事や会議の精選や仕事内容の整理の継続。
学習指導	・知的障害特別支援学校において、自立活動の活動内容そのものが目的化されがちであり、教科の学習とつながりが弱くなってしまうことが課題として挙げられる。また、集団での活動となりがちであることから、個別の課題に十分応じきれず、課題がコミュニケーション・人間関係に偏りがちである。 ・各教科等を合わせた指導と教科別の指導との関連性や児童生徒の具体的な姿（主体性）を評価する基準の設定や方法の難しさが見えてきた。 ・一人一人の自立定義が不明確な状況下にあり、その中で小中高の系統性を踏まえたキャリア教育の積み上げに課題が見えてきた。	・自立活動を、教科等の学習や生活を支える基盤として位置付け、児童生徒一人一人の学習上の困難の改善・克服を図る。 ・個別のねらいに基づく指導と教科等との往還を通して、実生活に生きる力の育成を推進する。 ・主体性を引き出す「できる状況づくり」を意識した授業展開の工夫や自立活動を関連付けた指導の展開が必要である。 ・障害程度の軽重において、その子なりの社会参加の在り方に焦点をあて、キャリア教育とシチズンシップ教育の両輪からのアプローチを推進する。

４　中期的目標

１　特別支援学校教職員としての専門性の向上に努める。（人材育成）
２　教科等との往還を大切にし、日々の実践を通して確かな変容を生み出す自立活動の充実に努める。（授業力）
３　地域とともにある学校づくりの推進に努める（コミュニティ・スクール）

５　本年度の重点目標

重　点　項　目	重　　点　　目　　標
１自立と社会参加に向けた教育活動の充実	①基本的生活習慣（挨拶・整容・姿勢・言葉遣い・時間管理等）と豊かな心の育成を図る ②個々の自立定義を明確にし、系統的なキャリア教育、シチズンシップ教育を推進する ③社会参加を促す体験的な学習の充実と実践を図る ④地域交流・学校間交流・居住地校交流等の交流及び共同学習を推進する
２一人一人の個性や特性及び状態に応じた指導・支援の充実	⑤経験の積み上げに迫る適切な指導・必要な支援を行う ⑥探求心を高める授業を実践し、一人一人の可能性を最大限に伸ばす ⑦学びの下支えとなる、自立活動の充実を図る ⑧自立活動、３観点に基づく教科指導の充実を図る ⑨ICT 機器を有効活用し、多様な授業展開を図る
３センター的機能の充実	⑩特別支援学校として、組織的な支援を推進する ⑪小中学校の自走に向けた自助資源の向上、支援をする ⑫教育相談及び適切な就学支援の充実を図る ⑬個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用を支援する ⑭スポーツ・文化活動を推進するとともに障害者スポーツの理解啓発に努める
４専門性の向上	⑮感覚や認知特性に関わるアセスメント力の向上を図る ⑯実態把握、芽生えを捉える分析力の向上を図る ⑰確かな専門性をもって一人一人に寄り添う支援を行う ⑱校内研修等を充実、知的障害教育の専門性の向上を図る ⑲医療・福祉、地域、関係機関等との連携・協働を通した教育活動の充実を図る
５安全・安心な学校づくり	⑳心の居場所と安心して学べる学校づくりを目指す ㉑想像を広げたいじめの予防的取組と組織的対応の充実を図る ㉒想像を広げた危機管理体制（平時・緊急時・災害時等）の見直しと強化を図る ㉓想像を広げた視点で業務改善を行い、働き方改革を推進する